

一般社団法人としてより責任ある活動を進めます

年頭のごあいさつ

一般社団法人茨城県保険医協会 会長 宮崎 三弘



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族とともに穏やかなお正月を過ごされたことと存じます。日頃より協会のご活動にご理解、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

げます。

昨年、大隅良典先生がオートファジーの研究でノーベル医学生理学賞を受賞されました。3年連続の受賞は、これまでの日本の基礎研究に対する高い能力が評価されたものと考えます。一方、生産性や効率が求められる状況は、基礎研究の環境の悪化を招くことが危惧されています。将来にわたって技術立国の地位を維持するためには、国の目先の成果にこだわらない幅広い基礎研究への強力な投資が不可欠です。

昨年、欧米では予想を裏切る社会情勢の変化がありました。成熟した社会において、いつの間にかポピュリズムやナショナリズムのうねりが大きくなり、驚きと将来への不安が増大しました。直接的民主主義の脆さを見せつけられました。既存の政治や制度の変化を求める大衆の動向を読み切れなかったマスコミ・ジャーナリストの劣化も指摘され、情報リテラシーの重要性が鮮明になりました。

大衆迎合的な政治手法は我が国でも見られます。消費増税の見送りは、70歳から74歳の医療費の自己負担増や高額療養費の自己負担限度額の上昇などの社会保障費削減を招いています。

誰がどのように負担するかが問題で、若者世代にのみに大きな負担を強いることは避けなければなりません。限られた財源を効率的に活用することが求められています。私たちも医療連携を進め、無駄な医療を抑制することが求められます。適正な医療を推進することが、適正に評価されるための第一歩と考えます。

茨城県保険医協会は、一般社団法人としてより責任ある活動を進めています。数年来の目標であった会員数2,000人を達成することができました。個別指導学習会、保険診療研究会などには高い関心が寄せられ、保険医協会ならではの保険診療の問題や医療の質の向上をめざした独自の研究会を全県的に開催し、さらなる会員増につなげたいと思います。また、勤務医や女性会員の獲得を視野に入れ、新たな取り組みを進めます。県北や鹿行地区の医療の現状は深刻であり、医師会や各団体と協力し、この地域での日常臨床に直結した情報提供に力を注ぎます。休業保障共済制度の利点を発信し、生活を守るための充実した共済制度の加入を含め新規会員獲得に結び付けたいと思います。

昨年、水戸と土浦で“いしゃ先生”の上映会を開催しました。志田周子先生は、国民皆保険制度の充実を訴えています。規制緩和の号令のもと、医療への株式会社の参入や無秩序な混合診療の拡大などが懸念されます。国民皆保険制度の維持・拡充は超高齢化社会では不可欠であり、健全な医療制度を次世代に引き渡す責務があります。混合診療の問題、皆保険制度の重要性や適切な医療機関のかかり方などの啓発運動については、医師会や歯科医師会などと連携しながら

積極的に活動していきます。

各地でそれぞれの地域に合った地域包括ケアシステムの構築が進められています。高齢者が住みなれた地域で健やかに生活するためには、在宅医療の充実と多職種連携が求められています。地域の医療を支える少数の医師が疲弊しないためにも、多くの医師ができる範囲で地域のニーズに添えていくことが必要です。在宅看取りや訪問歯科診療など在宅医療サービスに少しずつ取り組んでいく姿勢が必要です。保険医協会は研究会活動などを通し多職種との連携ができていますので、医療連携を進める支援・活動を展開していきます。

さて、理事会としては、会費（勤務医会員・準会員を除く）の値上げをお願いしたいと考えます。これまで21年間値上げすることなく運営してきましたが、現行の会費のままでは来年度より赤字が拡大していくことが想定されます。この間、事務局員の勤務時間の変更による時間外手当の削減、印刷費や送料の見直しなどの経費節減に努めてきました。また、発足当初より役員は報酬なしで活動してきました。全国の他の協会と比較すると、会費は低額であり、会員数に対する事務局員数も少ない状況です。診療報酬改定説明会、診療報酬査定事例の研究会、個別指導対策など皆様からの要望に応えられる事業を充実させたいと考えます。適切な情報提供を行い、皆様のご意見を取り入れ、役員、事務局員一丸となって健全運営に努めてまいりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

今年一年、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。